

国語 第5学年 夏の夜

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

夏の夜の様子を表す語を比べ、語感に合う表現を選ぶ。学習の記録は、夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)ア	ア 親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章を音読するなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。
〔第5学年及び第6学年〕B 書くこと(1)ア	ア 目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。

単元の目標

親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（〔知識及び技能〕(3)ア）

目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（B(1)ア）

夏の夜の様子を表す語を比べ、語感に合う表現を選ぶ学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア）	①夏の夜の様子を表す語を比べ、語感に合う表現を選ぶ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全1時間（書1）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 教科書にある季節の古文を手元で音読し、語の意味と響きから情景を想像する。夏の自然や暮らしの言葉を教科書で確かめ、見聞きした様子と対応させる。意味の近い語を比べ、伝えたい様子に合う語で短い文章を書く。友達が思い浮かべた様子を聞き、表す語を選び直す。読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



本時の案

本時の目標：目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（B(1)ア）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「同じ夜の様子でも、語を替えると印象はどう変わりますか」 【めあて】夏の夜の様子を表す語を比べ、語感に合う表現を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ季節でも言葉によって思い浮かぶ様子が違う。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「同じ夜の様子でも、語を替えると印象はどう変わりますか」 教科書にある季節の古文を手元で音読し、語の意味と響きから情景を想像する。夏の自然や暮らしの言葉を教科書で確かめ、見聞きした様子と対応させる。意味の近い語を比べ、伝えたい様子に合う語で短い文章を書く。友達が思い浮かべた様子を聞き、表す語を選び直す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ季節でも言葉によって思い浮かぶ様子が違う。 ・見た場所や感じたことに合う言葉を選びたい。	教科書で扱う季節の語の意味を実物・写真・辞書で確認する。行事の経験がない児童も、学校で見聞きした自然や暮らしから表す対象を選べるようにする。古文の内容は教材の解説で確かめ、言葉の調子を味わう時間を残す。 想定する難しさ：季節の語を集めるだけで、語の意味や自分が表したい様子を確かめられない。 評価では、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいるかを、夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・見た場所や感じたことに合う言葉を選びたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「同じ夜の様子でも、語を替えると印象はどう変わりますか」。中央は、夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左

側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまづきやすい所と手当て

季節の語を集めるだけで、語の意味や自分が表したい様子を確かめない。この難しさには、教科書で扱う季節の語の意味を実物・写真・辞書で確認する。行事の経験がない児童も、学校で見聞きした自然や暮らしから表す対象を選べるようにする。古文の内容は教材の解説で確かめ、言葉の調子を味わう時間を残す。評価では、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいるかを、夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」99行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

